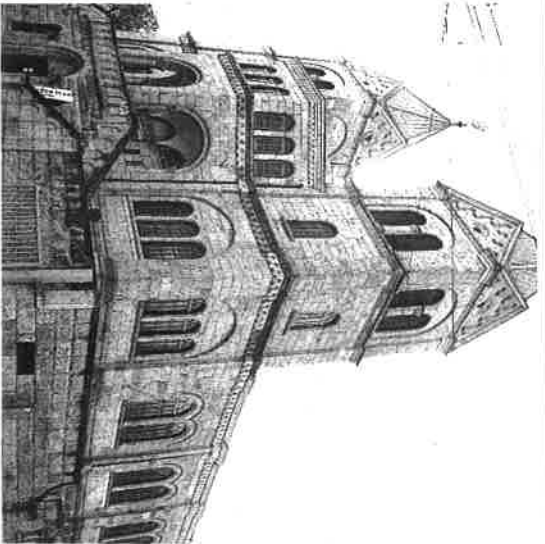


大谷石建造物群 日本遺産目指す

宇都宮市は、市内の景観になくはならない大谷石の建造物群について、地域の文化財を観光資源として活用する「日本遺産」への2017年度中の申請を目指す。佐藤栄一市長は21日の定例会見で「ストリーを一つ一つつってわかりやすく、内外の方々にも理解できるようにしたい」と意欲を示した。

市内にはカトリック松が谷公会堂といった建造物にもある。大谷石の奇岩群峰教会や宇都宮聖ヨハネ教壇広く大谷石が活用され、や磨屋仏、大谷石の地下探鉱跡などもあり、大谷石の存



●大谷石を使ったカトリック松が谷教会は国の登録有形文化財になっている。宇都宮市松が谷十丁目●「後継者の育成が急務」と語る渡辺哲夫さん。周囲には、教え子の「大谷アカデミー」の生徒の作品が並ぶ。同市新里町甲

市長が意欲／観光客増加へ期待

宇都宮市、2017年度申請へ



雨水がたまった探石場跡地をストで探るツッパが人気な宇都宮市大谷町

だ。市教委文化課によると、点在する史跡や建造物などの個々の歴史や価値を強調するだけでは日本遺産認定にはアピールが弱く、現在まで残った経緯や

土地の風習や風俗なども取り入れ、テーマに沿って地を向けてもらいたい。大谷石の建造物は、高度な修復や維持管理の技術なしに後世に伝わらない。そんな危機感がある。宇都宮美術館館主任学芸員の榎本慶子さんは「石の文化をい形で次世代に残していくのが私たちの務め。大谷石の見どころをこれからも紹介して我が町の宝を大切にしていきたい」と話している。

「技術の継承必要」の声も

大谷石の施工、販売などいうことで、終わってしまう手がける「大谷石産業」つた石として誤解されたくない」とも。愛知県犬山市の明治村に移築保存された旧帝國ホテルの壁面の大谷石彫刻や、も期待できて非常にいい。横浜市中区にある大谷石造り教会「横浜山手聖公使」の復興などにあたった大谷石職人の渡辺哲夫さん(60)は「技術の継承といっ

📌 **日本遺産**
文化庁が地域の活性化を図ることを目的に、今年度中に創設。歴史的建造物や遺跡、伝統芸能などを組み合わせてその土地の歴史や文化をわかりやすく説明する「ストーリー」が審査の対象になる。一つの市町村にまたがる「シリアル型」の2タイプがあり、現在までに全国で18件が選ばれている。県内では日本最古の学校「足利学校」がある足利市が、「近世日本の教育遺産群一学ぶ心・礼節の本源一」として、日本最大規模の藩校「弘道館」のある水戸市、庶民教育のための学校「開谷（しずたに）学校」の岡山県備前市、日本最大規模の私塾「咸宣（かんぎ）園」の大分県日田市と合わせ、4県にまたがった「シリアル型」で遺産に認定されている。文化庁は東京五輪・パラリンピックの2020年度までに100件ほどを認定する予定。

榎本さんは27日に市総合福祉センターで開かれる市まちなみ景観賞の講演会で「石の街つのみや」をテーマに話す。講演会でもこの申請の話題が出そうだ。事前申し込みが必要。市都市計画課（028・632・2568）へ。
(佐藤太郎)